

会議録（要点録）

会 議 名	第11回 第3次八王子市教育振興基本計画策定検討会	
日 時	令和元年（2019年）11月20日（水）午後7時00分～8時30分	
場 所	市役所8階 801会議室	
出席者氏名	参加者	和田孝、高橋洋、香取武雄、関口眞吾、中原教智、新庄良輔、石渡ひかる、野牧宏治 :座長 :副座長
	教育委員会事務局職員	設樂恵 学校教育部長、斉藤郁央 学校教育指導担当部長、小山等 生涯学習スポーツ部長、佐藤宏 図書館部長、橋本盛重 学校教育政策課長、野村洋介 学校教育指導主事、安達和之 生涯学習政策課長、高野芳崇 中央図書館長、上野和弘 学校教育指導主事、中村東洋治 南大沢図書館長
	事務局	三枝信博 学校教育政策課主査、持田勝 学校教育政策課主査、上島加奈子 学校教育政策課主事
欠席者	真喜志尚子	
次 第	1 開会 2 議題 第3次八王子市教育振興基本計画素案について 3 その他 4 閉会	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人数	なし	
配付資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・第10回 第3次八王子市教育振興基本計画策定検討会会議録 ・次第 ・資料1 第3次八王子市教育振興基本計画素案 ・資料2 指標一覧 	

	会議の内容
	<p>1 開会</p>
座長	<p>第11回策定検討会を開始する。</p> <p>この会も意見を重ねるごとに徐々に内容が固まってきたところである。より良い計画とするために忌憚のないご意見を賜りたいと思う。 事務局から説明を受けたあと、意見をいただく。</p>
	<p>2 議題「第3次八王子市教育振興基本計画素案」について</p>
事務局	<p>資料1について説明。</p>
座長	<p>計画の位置付け図は、「ビジョンはちおうじの教育」を新たに加え、目立つような表現になっているようだが、そのほか、変更した部分はあるのか。「子ども・若者育成支援計画」との関連をはじめ、構成の内容に変更があったのか。</p>
事務局	<p>内容については特段の変更はなく、見栄えよく整えた。</p>
座長	<p>指標については、後ほど意見をいただく。まずは、素案本編の内容について、意見をお願いしたい。</p>
参加者	<p>文章の構成についての意見だが、施策案「30学びを支える基盤づくり」の「現状と課題」の4つ目の項目に課題が記されていて、そのあとの2つの項目に現状が記されている。課題の後に現状という順番でよいのか、そして、現状のあとに課題の記載がないことも気になった。</p>
事務局	<p>他の施策との整合を含め、記載順について再度検討する。</p>
事務局	<p>必ず現状のあとに課題を表記する順になっていない。全体の内容の流れを意識して構成している。</p>
参加者	<p>第1編第1章第4節「持続的な開発目標(SDGs)との関わり」について、八王子市の福祉などの他の計画にもこのSDGsが関わるものなのか。市としてSDGsの実現に向けて他分野においても取組を進めるという理解でよろしいのか。</p>
事務局	<p>昨年度、市としてSDGsの実現に取り組んでいかななくてはならないと決定しており、今後策定する計画には記載することとしている。</p>
参加者	<p>SDGsの目標5「ジェンダー平等を実現しよう」を本計画に記載しないのか。</p>
事務局	<p>その分野の計画において主な目的としているSDGsの目標を記載している。ジェンダーで言えば、「男女が共に生きるまち八王子プラン」で記載している。</p>
参加者	<p>本計画では、SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」が該当しているが、市の他の計画において複数該当する場合もあるということか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p>

参加者	<p>施策案「15 職業観・勤労観を育成する教育の推進」について、キャリア教育を推進する視点で見ると、職業観・勤労観の育成を目的としているのがキャリア教育ではない。進路指導がキャリア教育に移行している内容としては、職業などに特化するものではなく、基礎的・汎用的能力の育成が本来の目的である。</p> <p>キャリア教育が必要と記載されている中で、内容がこの範囲でよいのか疑問である。</p>
事務局	<p>キャリア教育については、職業観・勤労観の育成から、小学校への就学から高校・大学等へ進学するにあたってのキャリア形成に主眼が変わりつつある。また、国においても2020年度にキャリアパスポートの導入を示している。このようなことを踏まえ施策名について検討していく。</p>
参加者	<p>学習指導要領では、一人一人のキャリア形成と自己実現という表現としているため、それを踏まえ、検討していったほうが良いと思う。</p>
参加者	<p>施策案「11 教育の機会均等の確保」について、母子家庭が増えており、十分な教育費が得られず、教育の機会が失われている。貧困家庭に対する支援として就学援助や奨学金以外にどのような制度があるのか。</p>
事務局	<p>金銭的な支援は就学援助と奨学金のみだが、施策案「20 学校だけでは解決が困難な問題に対する支援」で、福祉的・心理的な貧困家庭への支援を記載している。</p>
参加者	<p>高校や大学進学時における支援はあるのか。</p>
事務局	<p>市長部局で策定中の「子ども・若者育成支援計画」で取り上げる義務教育課程後の支援策に繋げていく方針である。</p>
事務局	<p>教育委員会では、高校生を対象とした奨学金制度を実施している。また、福祉部などにも支援があるが、本計画には記載していない。</p>
参加者	<p>施策案「6 食育の推進」について、「親子料理教室」が主な取組として具体化されていて読みやすくなった。調理体験を積んでいくという点では、このような取組を取り入れていくのはよい。</p> <p>施策案「22 家庭教育支援活動の推進」について、「家庭の教育力が低下している」と答えた市民は55.2%とあるが、個人的には8割を超えているようなイメージを持っていたので安堵という意味を込めて意外な印象をもった。</p>
参加者	<p>市民として、本計画の疑問や課題があることについて、行政にお伺いしてもよいのか。本計画の活用の仕方が示されていると有難い。</p>
事務局	<p>市民の方に向けて、今後10年間に取り組んでいくものを示しているので、様々な場面で活用していただきたい。</p>
参加者	<p>市民にも分かりやすい表現になっている。</p>
参加者	<p>学校の教員との話をする中で専門的な話題や言葉が出てくる。そのようなときに本計画を参照して、意味を理解できると良いと思う。</p>
事務局	<p>今後、市民の皆様から意見を聞くパブリックコメントの機会を設ける予定。できるだけ多くの方に本計画を知ってもらえるよう周知を図っていきたい。</p>

参加者	<p>前回までに提言した内容をかなり網羅してもらった。</p> <p>第1編第2章第3節「八王子の未来に対する子どもたちの思い」について「子どもたちの思い」という文言が加わったのは非常に重要なことである。</p> <p>施策案「17 学校の組織力向上」について、副校長の業務負担を軽減するために学校経営補佐などの人材を配置することを明言できたのは評価できる。</p> <p>施策案「18 地域運営学校の充実」について、前回の検討会で地域学校協働活動に対するスタンスを聞いたが、地域ごとに慎重に馴染むように進めたいという回答であった。それを踏まえて、現状と課題に「学校運営協議会の制度について、保護者や地域住民等への周知を図る」と記載されたのは評価できる。</p> <p>施策案「24 学校の再編」において、現状と課題に「いずみの森義務教育学校の効果・検証結果を、第二小学校及び第四中学校などの他の中学校区の再編事業に活かしていくと記載されたのも大変評価できる。</p>
事務局	<p>地域学校協働活動については、施策案「19 多様な地域の人材と協働した教育活動の推進」で、より具体的に記載させていただいた。</p>
座長	<p>では、続いて指標に対する議論へ移る。</p>
事務局	<p>資料2について説明</p>
座長	<p>指標について質問と合わせて意見をお願いしたい。</p>
参加者	<p>施策展開の方向「2 豊かな心の育成」について、以前の指標では「自分を大切にすると感じている児童・生徒の割合」において、現状値が77.8%であった。今回の4段階のポイントでは、3ポイントと4ポイントが肯定的な回答ととらえてよいのか。その3ポイントと4ポイントで回答した人の割合が77.8%ということでしょうか。</p> <p>また、数値の悪い子どもが多くても、数値の良い子どもも多くいれば平均値が上がる。平均値だけでは、本当の数値が見えてこないことが心配である。</p>
事務局	<p>以前の指標では、1つの調査に対する回答の割合を基に設定していた。しかし、今回提案した指標は「自尊感情尺度」をはかる調査を元に設定し直したものである。本調査では、全22項目の調査の結果を三角形の分布図にし、三角形の頂点をバランス良く育むことを理想としているもの。本指標では特にポイントが低い観点である「自己評価・自己受容」の部分指標として設定した。</p>
参加者	<p>施策展開の方向「3 健康なからだ・体力の育成」の指標が今回変更されている。前回の「朝食を食べている子どもの割合」の指標のほうが適正であったと思うが、なぜ変更してしまったのか。</p>
事務局	<p>保護者への意識啓発を行っても、朝食の摂取率を100%にするのは難しいのではないかという意見が事務局内でもあったことから変更した。</p>
参加者	<p>施策展開の方向「7 学校における指導体制の向上」の指標「学校の授業が分かる」と回答した児童・生徒の割合」は、これは全科目の平均であるのか。この目標値では低いのではないか。</p>
事務局	<p>全科目の平均である。目標値の根拠を示すにあたり、国の学校教育に関する意識調査の中で、「学校の授業が分かる」と回答した子どもの割合が、小学生全体では69.6%、中学校2年生では51.8%という数値があったことから、本市でも教員</p>

	<p>の授業改善のための取組を行っていることから目標値をそれぞれ設定した。</p>
参加者	<p>施策展開の方向「5円滑で継続性・連続性のある教育の推進」の指標「いずみの森義務教育学校の指導体制及び指導方法に満足していると回答した児童・生徒、保護者の割合」について、現状値が算出されていない。一方で目標値は80%とあるが、どのような考え方で目標値を算出したのか。</p>
事務局	<p>文部科学省が実施した「義務教育に関する意識調査」の「学校の総合的満足度」において、肯定的な回答が保護者で70%である。また「学校に通うことが楽しいか」という質問において、肯定的な回答が中学生で75%、そのうち中学1年生で69.5%であり、全国的に見ても80%に至っていない。本市では、義務教育学校をモデルとして小中一貫教育を推進していくことから、積極的に全国調査の平均値をより高い80%という数値を目標にした。</p>
参加者	<p>施策展開の方向「3健康なからだ・体力の育成」の指標「『運動をもっとしたい』と感じている児童・生徒の割合」について、本市の運動能力の数値は東京都の平均より低い。それを超えるための数値としたのか。</p>
事務局	<p>本市の現状値は東京都の平均を下回っているところであるが、平成30年までの数値を各種目ごとに分析したところ、確実にその差は縮まってきている。しかしながら、小学校入学の時点において、すでに運動能力の値が低い傾向であるため、保・幼・小が連携した取組も同時に進めていく必要がある。</p> <p>WHOの調査では、世界の成人の4分の1の割合の方が運動不足だという結果が示されていることから、本市ではもっと運動に親しんでほしいという思いから中学3年生女子では80%、男子では85%という目標値とした。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などを良い契機として、運動への興味関心を高めるような取組や授業を行っていく。</p>
参加者	<p>目標値に対する評価はどのようにしていくのか。行政評価では、所管課が自己評価し、学識経験者がその結果に対して評価する形が一般的である。</p>
事務局	<p>毎年の点検評価において、学識経験者から意見を聴いたうえで、その目標に向かってどのように進捗しているかを評価していく。</p>
参加者	<p>目標以上の成果があった、計画・目標どおり達成できた、計画・目標の一部が達成できなかった、達成できず困難な課題があるという4段階で評価していくのか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p>
参加者	<p>最終年度で目標を達成するのが難しいのではないかと心配である。今の段階から達成できないと言っているつもりではないが、中には達成が困難なものもでてくるのではないか。</p>
参加者	<p>施策展開の方向「1確かな学力の育成」の指標「放課後補習等、習得目標値未満の児童・生徒を減少させるための組織的・効果的な取組を実施している学校数」の目標の示し方は、「全小・中学校」ではなく、「100%」と割合で示したほうが良いのではないか。</p> <p>施策展開の方向「10市民がつながる生涯学習の推進」の目標が「前年度を上回る」とあるのは、目標としてふさわしくない。目標というのは、定量的に設定するものだと思う。定量的な数値で示した方がよい。</p>

	<p>施策展開の方向「11『いつでも、どこでも、だれでも』読書に親しめる環境づくり」の指標「市民一人あたりの貸出数」は、目標で「市民一人当たりの貸出数を増やす」とあるが、電子化が進んでいる中、この目標は疑問である。</p> <p>施策展開の方向「7学校における指導体制の向上」の指標「学校の授業が分かる」と回答した児童・生徒の割合」は、どの施策案とリンクするのか。</p>
事務局	<p>施策展開の方向「7学校における指導体制の向上」の指標「学校の授業が分かる」と回答した児童・生徒の割合」は施策案「16教員の資質・能力の向上」とリンクしている。</p> <p>施策展開の方向「1確かな学力の育成」の指標を全小・中学校という表記を割合に変更することについては検討する。効果的な取組を全校に展開し、習得目標値未満の子どもの割合を毎年2割ずつ減らしていきたいという意図がある。</p>
事務局	<p>施策展開の方向「10市民がつながる生涯学習の推進」について、生涯学習活動をしていると思っている市民の割合が伸びていないので、生涯学習は身近なものであるということを周知したい。そのため、地道に毎年数値を上げていきたいという意図で設定した。</p>
事務局	<p>図書館の利用登録者数、貸し出し数は右肩下がりである。また電子書籍の貸し出しについても、利用者登録が必要であることから、電子書籍の利用方法の周知も含め、登録者数をあげていかなければならないと考えている。</p>
参加者	<p>本市は読書のまち八王子を掲げているため、もっと積極的にしてほしい。また生涯学習に関しては、市民が生涯学習活動をしていると理解していないのであれば、働きかけをすれば数値が上がると思う。</p>
参加者	<p>目標は今よりも上を目指すものであり、「前年度を上回る」のは当たり前ではないか。1割増加するなど具体的な記載をしておいたほうが良い。</p>
参加者	<p>図書館の実利用者数について、貸出数という観点から離れることも必要。子どもに対する読書の機会を設けた数やブックスタートの実施回数などの活動指標でも良いのではないか。</p>
事務局	<p>指標を立てる際に、基本的にアウトカム型の指標で考えてきたため、アウトプット型の指標はなじまないとする。</p>
参加者	<p>施策展開の方向「9学びを支える環境づくり」の指標「週当たりの在校時間が60時間を超えている教員の割合」について、目標が「すべての教員で0%」は評価できる。サービス残業等により見かけ上は0%であるが、実態とは異なるということにはならないようにしてほしい。</p> <p>計画の進行管理において、PDCAマネジメントサイクルを機能させ、施策の取り組み状況を必要に応じて見直し・改善を怠らずに実施してもらいたい。</p>
事務局	<p>「週当たりの在校時間が60時間を超えている教員の割合」を0%にするのはハードルが高いが、この項目は実行しなければ教員の職場環境の悪化を引き起こすのであえて設定した。市教委は教員を守る立場であるため、実態を捉えながら教員の働き方改革を進めていく。</p>
座長	<p>全体を通して意見があればお願いしたい。</p>

参加者	<p>施策展開の方向「3健康なからだ・体力の育成」の指標として、地場産物を使用するとあるが、このほかに朝食の欠食率など複数の指標で図っても良いのではないか。ひとつの指標では偏りが生じるのではないか。</p>
事務局	<p>施策展開の方向ごとの指標なので、食育の推進のためだけの指標ではない。以前ご意見のあったように、朝食の欠食率は、教育委員会が目標として取り組んだとしても、家庭環境などにより達成できない可能性が高いのではないかとということから今回は別の指標とした。八王子市の農業振興や食育に貢献できるという観点から地場産物の使用を指標として記載した。</p>
参加者	<p>本市の小・中学校ではとても良い食育の取組を行っているので、学校給食に限ってしまうが、子どもたちの食育への理解などを指標として立てても良いのではないか。</p>
座長	<p>今回の意見を踏まえ、事務局には検討してもらいたい。</p>
	<p>3 その他</p>
事務局	<p>パブリックコメントは、令和元年12月15日から令和2年1月15日までの1か月間実施する。周知方法は、広報はちおうじ12月15日号や市のホームページで掲載する。素案冊子の閲覧場所は、各市民事務所や市民センター、図書館、小・中学校、教育センター、生涯学習センターとする予定である。</p>
座長	<p>パブリックコメントでは検討会の委員名は明記されないことよろしいか。</p>
事務局	<p>そうである。 素案の页数は多く、時間も限られることから、発言できなかったことがあれば、意見書へ記入の上、11月28日(水)までに郵送もしくはFAX、メールでも事務局へ送付していただければ結構である。</p>
	<p>4 閉会</p>
座長	<p>次回の会議の開催予定について事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>当初の予定を変更して、パブリックコメント実施中であるため、また、大きな内容の変更がある場合のみ開催することとしていたが特に大きな変更はないため、12月は開催を見送りたい。 今回は、令和2年1月29日(水) 場所は市役所本庁舎7階702会議室。時間は午後7時から予定している。 次回の会議では、パブリックコメントの結果を踏まえ、どのように計画に反映していくのかなどについて意見や助言をいただく。 資料は事前に送付するので、事前に確認してほしい。</p>
座長	<p>本日はこれにて閉会とする。</p>